

だい かい
第15回

にほんご

日本語

スピーチコンテスト

つたえる ことば
つたわる きもち
つながる よろこび

2020年2月16日(日)にイーグレひめじ3階あいめっせホールにて、第15回日本語スピーチコンテストを開催しました。姫路市内在住・在学・在勤の外国人が日々の生活の中で感じたことや、伝えたい気持ちを日本語で発表しました。今年は、ベトナム、インドネシア、インド、中国の4か国から13名出場し、個性豊かなスピーチを披露しました。



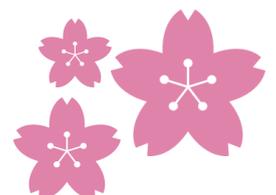
金賞と観客の投票で決まる「オーディエンス賞」をダブル受賞したのは、市内の高校に昨年4月から通うインドネシア・ジョグジャカルタ出身のフェロニカ アンジェリア トゥリスノ プトゥリさんです。「チャウチャウチャウ!？」というタイトルでスピーチをしました。来日前に勉強した日本語は、姫路で全然使われておらず、姫路に来て初めて関西弁を知り、理解するのに苦労したことを話しました。今では少しずつ関西弁が使えるようになり、周りの人たち

と距離が近くなったように感じると付け加え、これからも関西弁に興味を持ち続け、たくさんの友達を作りたいと締めくくりました。

銀賞に選ばれたのは、「ゆるし」というスピーチを発表したベトナム出身の留学生グエン ティ ヒエンさんです。ゆるしとは、恨みと怒りを捨てて、心の自由に達することだと提言し、以前信頼していた友達に裏切られ辛い経験をした時に、ある本に出会い、友達を許すことができたと話しました。最後に、過去にとらわれず、未来に向けて心を開いていってくださいと力強く発表し、観客を引き込みました。



銅賞は、「私の居場所」というスピーチをしたベトナム出身の留学生フン ティ タイン トウさんです。親から逃げ、自由を求めるために、日本に来てあまり親と連絡を取らなくなったそうです。そんな時に、病気になったり、交通事故にあったりして、家族のことを思い出したそうです。今までは親の前では強がっていましたが、電話越しに泣きながら国に帰りたいと言うと、親も泣きながら帰って来てもいいよと言ってくれ、初めて親の愛を感じたそうです。自分にとって一番怖いのは、帰る場所がないことと、迎えてくれる人がいないことだと静かにまとめました。



審査の間には、ギターの弾き語りとインドネシア・バリ島舞踊の発表がありました。



ギターの弾き語りは、スピーチもしてくれたフェロニカさんが披露しました。高校でギター・マンドリン部に所属しており、日ごろの練習の成果を披露してくれました。フェロニカさんの音楽の才能に驚かされ、柔らかく伸びやかに響く音色は、とても心地よいものでした。

インドネシア・バリ島舞踊の発表は、市内の日本語学校で勉強しているニカデク マタリア アンダニさんです。5歳から本格的に踊りを習い始め、2曲披露してくれました。エキゾチックな音楽に合わせて情熱的に演舞され、華やかな衣装やきらび

やかな装飾品にも魅了されました。

会場からは、「みなさんが自然な日本語を話されていて、素晴らしいと思いました。ますます活躍されることを期待しています。」や「素晴らしいスピーチばかりで、とても感動し、良い時間が過ごせました。」などたくさんのメッセージが寄せられました。

姫路市内には様々なバックグラウンドを持つ在住外国人が生活しています。この日本語スピーチコンテストは、日本語を母語としない在住外国人に、日本語学習の成果を発表する機会を提供するとともに、市民のみなさんに多文化共生社会について考えるきっかけを提供することを目的に年に1度開催しています。在住外国人ならではの視点や指摘に驚かされたり、日本と外国の文化や習慣の違いを再認識したり、毎年新しい発見があります。来年はどんな話題が飛び出すのでしょうか。

